

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年4月1日

55号



ソロモンパラグアイ下院議長、文顕進SFP創設者一行、レダ視察（ニームの木の説明を受ける）

南北米福地開発協会が一九九九年十月より、取り組んで来た環境保護活動ならびに近隣のインディヒナの村、エスペランサに建設した学校の視察のため、パラグアイ下院ソロモン議長とともにアメリカのNGOの団体SFP（サービスフォウピース）の創設者、文顕進氏、並びにそのスタッフがレダを訪問した。

はじめに、エコツーリズムに来るゲストの為に各施設を訪問した。温暖化対策のため、雨の少ない土地にも良く育つニームの木の植林、化石燃料から再生可能なエネルギーとして最近関心を集めているバイオ燃料生産のため、植えているジャトロファの植林、また開発途上国の栄養不足を補う為のモリンガの木の植林をしていることに特に関心を持ち、現地の開拓責任者、中田氏から詳しく説明を受けていた。

ソロモン下院議長はこのようなプロジェクトが今迄行なわれていた事に驚き、是非、近い将来、他の国の指導者を連れて、研修を受けたいと希望を述べておられた。

また、アメリカから来た文顕進氏は若い青年の教育のため、アメリカの多くの若者を自然の豊かな環境で訓練し、環境問題に意識を高める研修をレダで行ない、また、インディヒナの村の教育向上のため、ボランティア活動の青年を送りたいとの意向を述べておられた。

レダの視察の後、エスペランサの村を船で訪れた。（写真、ピンクのシャツを着ているのがソロモン下院議長、その右が文SFP会長、青いシャツを着ているのが中田氏）



上：ラパーチョの木を植えるソロモン下院議長
 右：ニームの木を植える文SFP創設者（レダにて）



三月一日、二十十六名のグループがレダを訪れた。パラグアイ、アメリカ、チリ、ウルグアイからのゲストでしたが、皆、保護された自然の中で乗馬を楽しみ、また、貴重な鳥を見、エコツアーを楽しまれた。環境問題に関心のある多くの訪問者をレダでは待っています



ソロモン下院議長、文顯進SFP創設者とその一行がエスベランサ村学校訪問（三月二日）
 学校長との話し合いで、文顯進氏は不足している学校の調度品を援助する事を約束し、学生には学ぶ事の重要性を話しておられた。また、アメリカからボランティアの青年を送る準備をすると発表された。

一日環境セミナー開催（大山街道ふるさと館三階）

高津地球の緑を守る会理事長を迎えて



小向理美（青年）

研究報告やニュースで、地球環境について取り上げられるたび、近年の環境破壊は深刻で救いようがないように思えてきました。

森林は、環境修復、保全の可能性を秘めていることを知り、人間が自然と共存することによって、環境修復に対する希望があるのだと感じました。レタ開拓においても、環境に適した植物や、将来性のある植物を植えることによって、荒地を数年で緑豊かな土地に変えたことや、栄養価の高い植物や、バイオ燃料を栽培していることについて、将来に対する希望を感じます。豊かで恵まれた環境に生まれた私たちは、恵まれない環境に生まれた人々のためにできることをし、教育し、共存していく必要があると思います。ありがとうございました。

照屋愛子（婦人）

地球温暖化による、生態系の危機、そして、森林が伐採される事による、生態系の危機を午前中お聞きし、一本の木を植える事によって、生態系の危機を救うことにつながる事を、改めて実感いたしました。パンタナールのレタ開発、一九九九年から出発した、開発が今日見違える程に、姿を変え、現地の人々との交流、そして現地の人々に、物資援助をしながら、希望を与え、先進国で受けた恩恵を現地に与える事で、自然の中に、先進国が抱えている、多くの問題の解決の要素があり、今の日本の若者にも「エコツアー」を通して自然に触れる事でもっともつと心を豊かにでき、夢や希望が膨らむと思えました。将来、息子（子供たち）にも、青年ボランティアとして、体験させてみたいと思いました。

講師：NPO地球の緑を守る会理事長 高津啓洋

講演要点

一・地球温暖化は人間活動（炭酸ガスなどの温室効果ガスの排出）による影響

二〇〇七年、IPCC気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が「温暖化は人間活動による可能性が非常に高い」との報告書を発表。世界がこれを認めためたため、同年、ゴア氏と共にノーベル平和賞を受賞、これまで専門家の間でも科学的裏づけが希薄との理由で長年議論が続いていたが、今回初めて決着がついた。

二・炭酸ガスを吸収・固定する森林が温暖化をストップさせる。本来の森林は、高木、亜高木、低木、下草の立体的多層群落を形成、緑の表面積は単層群落であるゴルフ場などの芝生の三十倍ある。

防音、防塵、空気や水の浄化、保水などの環境保全機能も三十倍

温暖化の元凶である炭酸ガスを吸収・固定する能力も三十倍以上

植樹による森林再生が温暖化に対する抜本的対応となる

三・地球の緑を守る会の活動

二〇〇一～七年、パラグアイにて、半砂漠状態の放牧場跡地に二〇〇〇本以上のポット苗を植樹、十二ヘクタール（三万六千坪）の緑地を造成

国内では、環境問題全般に関する講演会、勉強会、森の観察会、植樹用ポット苗づくり、子供への環境教育など

第8回 国際協力青年ボランティア隊員募集

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会が得られるよう国際協力青年ボランティアを下記のように企画致しました。

期 間：2008年8月18日(月)～9月3日(水)

8/17(日)：オリエンテーション・研修を行います。8/18成田発後日、参加者にスケジュールの詳細を通達。

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域 活動内容：
共同植樹活動及びインディヒナの村での文化交流、レダにて奉仕活動、自然探訪、乗馬、釣り体験 首都アスンシオン訪問

世界遺産イグアスの滝見学

参加資格：18歳以上25歳まで

(健康に自信のある男女)

参加条件 小論文(400字以内)提出

テーマ：「参加の動機及び将来の夢」

提出期限：6月30日

提出先：南北米福地開発協会

小論文に各紹介者の推薦文を添付すること

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：7名 参加費用：15万円

成田 アスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。

(小遣い、海外保険、家から成田までの往復費用などは個人負担)

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 柴沼邦彦

TEL:044-829-2821 FAX:044-829-2820

Email:office@asd-nsa.jp



一日環境セミナー御案内

日時 二〇〇八年四月二十日(日)

場所 事務局前 大山街道ふるさと会館

参加費 一千元(昼食付き)

研修内容

午前中

『温暖化対策における植樹活動の意義』

地球の緑を守る会 事務局長

戸石文夫

午後

『エコツーリズムの課題と未来』

南北米福地開発協会 事務局長

柴沼邦彦



〒211-3100
南北米福地開発協会 事務局
神奈川県川崎市高津区
溝口二丁目十一番十五

岩崎ビル4F

電話 〇四四一八二九一二八二一

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ
http://www.asd-NSA.jp